

9月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
りんご類		6,551	100	5,983	264	94	256	857	13.1	27年度産の貯蔵ふじは品質低下もみられて早めに出荷され、8月の残量はさほど多くなかった。8月中旬より長野・山形産の「つがる」の入荷が始まっており、9月になれば青森産もスタート。前年の9月は各地順調で平年よりも早い中旬から中生種の入荷が始まり、食味がよかったため引き合いが強かった。本年も生育は若干早めで着色等も概ね順調にきており出始めの数量もまとまっている。早めに売り場作りができれば安定した販売が見込まれる。
日本なし類		9,914	96	10,908	246	107	254	56	0.6	昨年は秋が早くきたためなしの販売は盛り上がりを欠いた。食味は良好であったが中下旬の販売は低調であった。今年は逆の展開で販売環境は良好と予想される。特に新品種効果も徐々に発揮され、価格は前年を上回る見込み。晩生品種へのリレーも早め早めの展開が予想される。
かき類		2,986	101	2,253	322	101	344	3	0.1	本年は前年より若干生育早く、玉肥大も順調で糖度などの食味もよいことから、荷動きは悪くない。出始めは前年並みの価格となるが、後半は前年を上回る価格での取引が見込まれる。
ぶどう類		4,872	105	4,543	804	91	718	325	6.7	各産地から露地(無加温)ぶどうの出荷が始まっており、年間で最も品種の出揃う時期を迎える。7月まで比較的過ごしやすい気候であったことで大粒系品種の着色も良く、8月前半から順調な入荷となっている。盆明けからの高温で屋や出荷は足踏み状態となっているが、いずれも作柄は良く9月にかけても潤沢な出回りが見込まれている。高値だった前年の価格は下回るが、平年並みの見込み。